

第二十一回定例公演 公益社団法人能楽協会九州支部

ほおずき能



©写真撮影 前高写真店

能
頼政
栗谷充雄

狂言
萩大名
河原康生

はぎだいみょう
よりまさ

九州在住の能楽師による能・狂言を 観てみませんか！

公益社団法人能楽協会九州支部は、
平成十一年に設立されました。

現在、シテ方四流、ワキ方、囃子方七流、狂言方二流、
約七十名の能楽師が所属しています。

能、狂言、舞囃子、仕舞と各流の競演をお楽しみください。



森本能舞台までのアクセス

- ・西鉄バス 城南線「雙葉学園入口」バス停より徒歩3分
- ・地下鉄七隈線 「葉院大通」駅または「桜坂」駅より徒歩8分

令和3年 8月8日(日)

午後1時開演 (午後12時開場)

〔会場〕 森本能舞台

福岡市中央区警固3-8-1 ☎092-711-8888

〔入場料 (全席自由) 〕

一般 5,000円 (当日6,000円)

学生 2,000円 (当日2,500円)

❖ チケットの購入・お問い合わせ

森本能舞台 [電話] 092-711-8888 [FAX] 092-711-8181

[mail] m-nohbutai@hor.bbiq.jp

主催：公益社団法人能楽協会九州支部

《ご来場のお客様へ 新型コロナウイルス感染防止のためのお願い》

- ・館内では必ずマスクの着用をお願いします。
- ・会場入り口で非接触型による検温を行います。37.5度以上の発熱が確認された場合はご入場をご遠慮いただきます。
- ・入り口の混雑を避けるため、時間にゆとりをもってお越しください。
- ・入館時のアルコール消毒、手洗いの施行、咳エチケットへのご配慮をお願いいたします。

ほおずき能

令和三年八月八日(日)午後一時始
森本能舞台

番組

仕舞(親世流)

知之章
阿漕守

今村嘉太郎
鷹尾章弘
多久島利之
久保誠一郎

山口剛一郎
鷹尾維教
今村一夫

仕舞(金春流)

野守

經政

松井笙子

北山春彦
東軍三男
田中寿男

仕舞(宝生流)

班女

山岡晴美

久貫弘能
田村恭
石黒実都

狂言(大藏流)

萩大名

大名河原康生

大郎冠者 秋吉英二
亭主 川邊宏貴

後見 小松利裕

仕舞(喜多流)

笹之段

大鳥衣恵

渡辺康喜
金子敬一郎
狩野了久
大鳥輝久

舞囃子(親世流)

邯鄲

盧生菊本澄代

大鼓 白坂保行
小鼓 飯富章宏
太鼓 田中達彦
大鼓 相原一彦

井内政徳
森本哲郎
今村嘉伸
今村嘉太郎

仕舞(親世流)

半部

今村宮子

多久島法子
菊本美貴
木月晶子

(休憩十五分)

能(喜多流)

頼政

後前頼政 栗谷充雄

旅僧坂苗 融

大鼓 白坂保行
小鼓 古田寛二郎

苗 浦政徳

里人吉良博靖

後見 栗谷浩之
大鳥衣恵

金邊康喜
狩野了久
大鳥輝久

◎仕舞

一曲の舞所を、囃子を加えず、装束も着けずに紋付袴で舞う事。
一曲三分〜七分位です。ストーリーはあまり気にせず、演者の動きにご注目下さい。

◎舞囃子

一曲の主要な部分を紋付袴で、謡と囃子によって舞う事。

◆演目紹介

狂言【萩大名】

長い間在京していた田舎大名が、帰国の前に太郎冠者の案内で庭園の萩の花見に出かける。花見の席で和歌を詠めと言われた場合を予想し、太郎冠者が「七重八重九重とこそ思ひしに十重咲き出する萩の花かな」という歌を教えるが、大名はなかなか覚えられない。そこで太郎冠者は、扇を少しずつ開いてその骨(扇の竹の部分)の数で「七重八重」、萩は足の脛を指すなど物になぞらえておき、その場でひそかに合図を送る手にするが、なかなかおぼつかない。そして、ドタバタの花見が始まるが…さて、一体どうなるのでしょうか。

舞囃子【邯鄲】

盧生は、帝の位、永遠の命などを与えられ榮華を味わう。興に乗じて「楽」という舞(楽しさを表現する、足拍子を多く踏む舞)を舞うが、それはすべて夢の中の出来事であった。

能【頼政】

旅の僧が、初夏の宇治の里に赴き、美景に見入っていると、老人が現れて所の名所を教え、平等院に案内する。扇の形に残された芝を見せ、頼政が扇を敷いて自害した跡だと教え、自分がその頼政であると名のり、姿を消す。(中入り)

僧は、里人の話を聞き、頼政の霊の登場に確信を持つ。夜になると、甲冑をまとった頼政の霊が現れ、読経を頼み、敗戦の様子を物語る。平家の忠綱が兵を見事に指揮し、頼政らは敗戦へと追い込まれる。老武者の頼政は辞世の歌を詠み、自害したのであった。



©写真撮影 前島写真店